

# 連合徳島ユースターNEWS

(2023年度 第3号)



10月下旬頃から、季節外れの暑さと急な冷え込みを繰り返し、インフルエンザに流行なども話題になっている状況ですが、体調を崩されたりしていないでしょうか。決して無理はせず、規則正しい生活と十分な休養を意識し、年末の多忙な時期を無病息災で乗り切っていきましょう！

10月22日投開票の2023参院補選〔徳島・高知選挙区〕においては、連合徳島・連合高知の推薦候補である広田 一（ひろた・はじめ）さんが見事に大差での当選を果たしました。

ただ、歴史的な低投票率であったことは、とても残念な材料です。世間の関心の低さは、有権者を無視した、無責任な政治に繋がります。この点は大きな反省材料だと思います。

この選挙戦の最中、元・兵庫県赤石市長の泉房穂（いずみ・ふさほ）さんが応援演説にお見えになっておりましたが、日頃「X（エックス・旧Twitter）」等のSNSなどでも発信されているように、「〇〇の政党だから、〇〇が支持母体だから選ばれる」旧来型の選挙ではなく、『真摯に国民のため、住民のために行動しているかを見極め、それに値する人物であるから選ばれる』方向にシフトしつつあり、与野党含め、信念のない、選挙互助会のような既存政党および政治家に対する世間の評価は厳しい状況であるといった主張には、大いに首肯できる部分があります。

そういった既存政党・政治家の不甲斐なさが「支持政党なし」ひいては「選挙への無関心」に繋がっていると思いますが、その支持されない、関心を持たれない政党・政治家が、私たちのための政策を実現してくれる保証はなく、むしろ逆だと思います。

その状況を見かねて、国民の受け皿となるべく、直近では「日本保守党」等の新たな政党の立ち上げも行われ、大きなうねりとなっています。（大手メディアではほぼ無視ですが・・・）

「政治とは無関心であっても、無関係ではいられない」ものです。政治を「自分ごと」として捉え、政党の政策、政治家の人物、その主張・公約と実際の行動の整合性を見極め、納得のいく一票を投票できるようにしていきましょう。

以下、前回報告（9月末まで）以降、短期間の内容となりますが、簡単にご報告いたします。

その中でも今回のユースターNEWSでのトピックスとして、2023年10月14日に開催の「青年委員会 秋季学習交流会」の研修レポートを掲載しました。

## 【経過報告】

### ①「2023年度 連合徳島青年委員会 秋季学習研修会」（10月14日）

労働福祉会館502号室にて19名（事務局含む）の参加により、連合徳島 島会長を講師にお招きしての講演および意見交換会を実施しました。（詳細は研修レポートおよびFacebookの投稿をご参照ください）

### ②「2023連合徳島・3地協合同 秋の大運動会」（10月22日）

幹事4名が参加し、駐車場整理、ラジオ体操、各種競技の運営協力等を実施しました。

### ③「青年委員会 第7回幹事会」（10月30日）

### ④「青年委員会 第8回幹事会」（11月27日）

2023年度の活動全体の振り返り、2024総会に向けて、議案書（経過報告、2024活動計画他）および役員体制等をメインの議題として、協議を実施しました。

## 【「青年委員会 秋季学習研修会」ダイジェスト】

2023年10月14日の10時から、労働福祉会館502会議室にて、各構成組織より19名の参加者が集まり、冒頭の主催者からの「参加者全員が当事者の認識を持って、協力して有意義な時間にしましょう」という呼びかけの元、「2023年度 連合徳島青年委員会 秋季学習研修会」が開催されました。

2023参院補選〔徳島・高知選挙区〕選挙期間の真っ只中でしたが、連合徳島執行部より島会長にご参加をいただき、第1部では、「連合徳島における活動および諸課題」、「青年活動に期待すること」をメインテーマとする講演、第2部では、青年委員とのフリーテーマによる意見交換会を行いました。

第1部の中では、「季刊RENGO(2023年・秋号)」に掲載されている「教員の魅力を取り戻すためには」というテーマの対談記事を活用しながら、自らの職場や身の回りを振り返り、共通する課題を認識し、解決のための気付き・示唆を得るという取り組みを行い、「自分の身の回りでも参考になる示唆に富んだテーマであった」、「行き過ぎた「前例踏襲」による固定化のジレンマは組織の健全性・活力を失わせ、悪影響を及ぼすことを再認識した」といった感想、また、その内容と絡めた連合徳島としての課題認識や実践している取り組み、政治活動へのスタンスなどの説明についてもよく理解できたという感想をいただいております。

青年委員の活動については、島会長より「現状を高く評価しており、今後、組織を横断した交流や情報交換をより活発にし、積極的に新しい提案等をお願いしたい」との期待のコメントをいただいております。更に活動に磨きをかけていければと考えております。

第2部の連合徳島執行部と青年委員の対話というスタイルは初めての取り組みでしたが、労働組合活動の原点である、対面でお互いの温度感を感じながらの和やかな雰囲気でのやり取りとなり、「直接、言葉を交わすことで、連合の方針や考えなどをよく理解することができた」、「自分にできることを考え、しっかりと行動に移していきたい」といった感想もいただき、概ね好評であったと思います。

閉会あいさつでの主催者メッセージのとおり、「過去」を変えることはできませんが、「現在・未来」は私たちの努力で変えていくことができます。

今回の研修で定着した『礼儀正しく、ずうずうしく』のスタンスで、共に頑張っていきましょう！

(Facebook記事より抜粋)

### 研修のカリキュラム

#### 「連合徳島 青年委員会 秋季学習研修会」式次第

1. と き 2023年10月14日(土) 10:00~12:00 [9:30~受付]
2. と ころ 徳島県労働福祉会館5F(502会議室)  
【徳島市昭和町3丁目35-1】
3. 目 的 対面での講話や真摯な意見交換の機会を通じて、連合徳島執行部と活動の次世代を担う幹事会メンバーを中心とする青年層との間で、課題認識等を共有するとともに、コミュニケーションを強化し、今後より一層の連合活動の活性化を図る。
4. 開催次第
 

10:00	開 会 ~ 主催者挨拶
10:10	講 演
	【講師：日本労働組合総連合 徳島県連絡会 会長 島 和久 氏】
	(テーマ)「連合徳島における活動および諸課題について」
	「青年活動について期待すること」
10:55~	講演に関する質疑応答(終了後、休憩)
11:10~	青年委員との意見交換
11:40	まとめ・閉会挨拶
11:50	アンケート記入
12:00	終 了

### 講師を務めていただいた島会長



### 会場の様子(小畑委員長あいさつ時)



### 研修終了後の集合写真



## 2023 年度連合徳島青年委員会秋季学習研修会

2023 年 10 月 14 日、労働福祉会館で開催し、9 産別 19 人の仲間が参加しました。

冒頭、主催者を代表して小畑委員長から「参加者全員が当事者の認識を持って、協力して有意義な時間にしましょう」とあいさつがありました。

学習研修会では、連合徳島執行部から島会長を講師としてお招きし、「連合徳島における活動および諸課題」、「青年活動に期待すること」と題した講演を受けました。

講演では、「季刊 R E N G O (2023 年・秋号)」掲載記事「教員の魅力を取り戻すためには」の読み合わせを行い、教員職場で起きている問題などの現場の実態を学ぶとともに、自らの職場や身の回りを振り返り、共通する問題や課題に対する理解を深めました。

また、2023 参院補選 [徳島・高知選挙区] に対する情勢や連合徳島としての方針提起があり、推薦候補者必勝にむけた意思統一を行いました。

### (講演の内容)

- ・ 近年、IT や英語など新しい業務が増加し、子どもと向き合える時間が減っている。
- ・ テストの採点など期日までに終わらせなければならない業務に追われ、いじめや発達障害の子どもに十分な対応ができていない。
- ・ 現行制度では、働いた時間に対する時間外勤務手当が支給される契約形態ではないため、新しいことを始めるのも止めるのも難しい状況であり、前例踏襲の業務をこなすことに精一杯の状況となっている。

### (参加者の声)

- ・ 順番に読み上げながらの全員参加といったやり方が新鮮で、じっくり考えながら進めることで、深く理解できた。
- ・ 行き過ぎた前例踏襲による固定化のジレンマは、組織の健全性・活力を失わせ、悪影響を及ぼすことを再認識した。

続いて、島会長と参加者との意見交換会を行いました。

参加者からは、日ごろ抱えている悩みや疑問について、率直な意見が出され、対話を通じて率直な思いをやりとりする中で、労働運動に対する理解を深めました。

### (意見交換会の内容)

- 職場に若年層が入ってこない、入ったとしても、すぐに辞めてしまう。連合として、若年層の早期退職をどう認識しているか。
- ・ 連合徳島は、労働環境の改善とやりがいの向上を重視し、様々な取り組みを進めている。特に、春季生活闘争や厚生労働省や文部科学省への働きかけを行い、多くの労働者に波及する取り組みを担っている。
- ・ 早期退職の原因のひとつとして、「自分が思っていた会社・職場ではなかった」とい

たことが挙げられると認識している。

- ・ 日本では、労働組合の結成率は約 17%程度であり、自らの交渉によって労働条件が改善できる人は、少数派である。しかしながら、それが分かるのは社会人になってからであるため、「思っていた会社・職場ではなかったから辞める」といった状況が生まれている。
- ・ 連合徳島では、それらの解消にむけて、社会人になる前から福利厚生が手厚い会社や労働組合の必要性を知ることができる機会をつくるため、大学などと連携した「寄付講座」の実現をめざし、関係者との対話を進めている。

● 単組・産別の垣根を越えて連帯できる取り組みの機会をつくりたいと考えている。どういったものが考えられるか。

- ・ 連合徳島の執行部においても、自分が所属する産別以外の取り組みや労働条件を知る機会は少なく、他産別の取り組みに驚かされ、学ぶことが多々ある。
- ・ 青年委員会の取り組みとして、他産別の取り組み、労働条件、職場実態などを知る機会があれば、運動の前進につながるものがあるのではないかと考える。

● 多くの組織で労働組合離れが進んでいると感じているが、労働組合としてどのような取り組みが求められているか。

- ・ 仕事も労働組合の活動も両立するのは非常に大変なことだが、それを上回るやりがいがある。
- ・ 職場で困った人が相談できる窓口がある、最低賃金などをはじめとして、労働組合がない 83%の人に影響を与えることができる活動であり、誇らしい活動であると認識している。
- ・ その一方で、労働組合離れや役員の担い手不足が叫ばれているが、原因のひとつとして、「組合役員が組合員の職場に行かない」ことが大きく影響していると感じている。
- ・ 労働組合の役員は、組合事務所で待っているのではなく、「礼儀正しく、図々しく」組合の職場に行き、ひざを突き合わせて話をしていくことが重要。

● 労働組合活動に前向きな人とそうではない人がいるため、温度感に悩む役員がいる。どう関わるべきか。

- ・ 労働組合活動の取り組みに消極的な人に対する特効薬はなく、取り組みを継続しつつ、待つしかない。
- ・ 誰でもいつかは労働組合があつてよかったと思える瞬間があり、そこから運動の前進につながるものと考えている。

● 労働組合活動の均等化・平準化をするためには、どのような取り組みが必要か。

- ・ 各取り組みはあくまで自主的な参加であり、労働組合活動の均等化・平準化は、現実的ではなく、追求するべきではない。
- ・ その上で、若年層の参加を促すためには、レクリエーションなどをきっかけとして、人との接点をつくり、集まって話をすることに意義・価値を見出すことができれば、組織強化につながるものとする。

最後に、閉会あいさつとして、小畑青年委員長から「私たち働く者の、生活者の声をしっかりと社会に届けていく必要があり、労働組合の役割はより大きくなっている。礼儀正しく図々しく運動を前進させたい」という決意表明で閉会しました。